

道路事業 事後評価

一般国道101号 ごしよがわらにし 五所川原西バイパス

令和2年3月19日
国土交通省 東北地方整備局

1. 事業の目的と概要(1)

○事業目的

- ・一般国道101号は、青森市を起点とし、日本海沿岸部を經由して秋田市に至る延長約282kmの主要な幹線道路である。
- ・五所川原西バイパスは、津軽自動車道の一部を形成し、青森県五所川原市大字太刀打～同県つがる市柏稲盛岡本に至る延長3.8kmの自動車専用道路である。

五所川原西バイパス計画概要

起終点 : 自) 青森県五所川原市大字太刀打
 至) 青森県つがる市柏稲盛岡本

延長 : 3.8 km

幅員 : 12.0 m (2車線)

道路規格 : 第1種第3級

設計速度 : 80 km/h

事業化 : 平成16年度

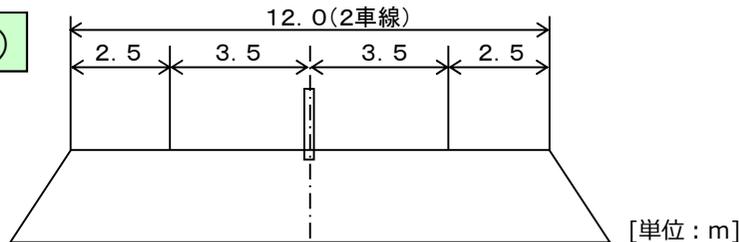
用地着手 : 平成18年度

工事着手 : 平成19年度

全線開通年度 : 平成26年度

(平成26年11月3日)

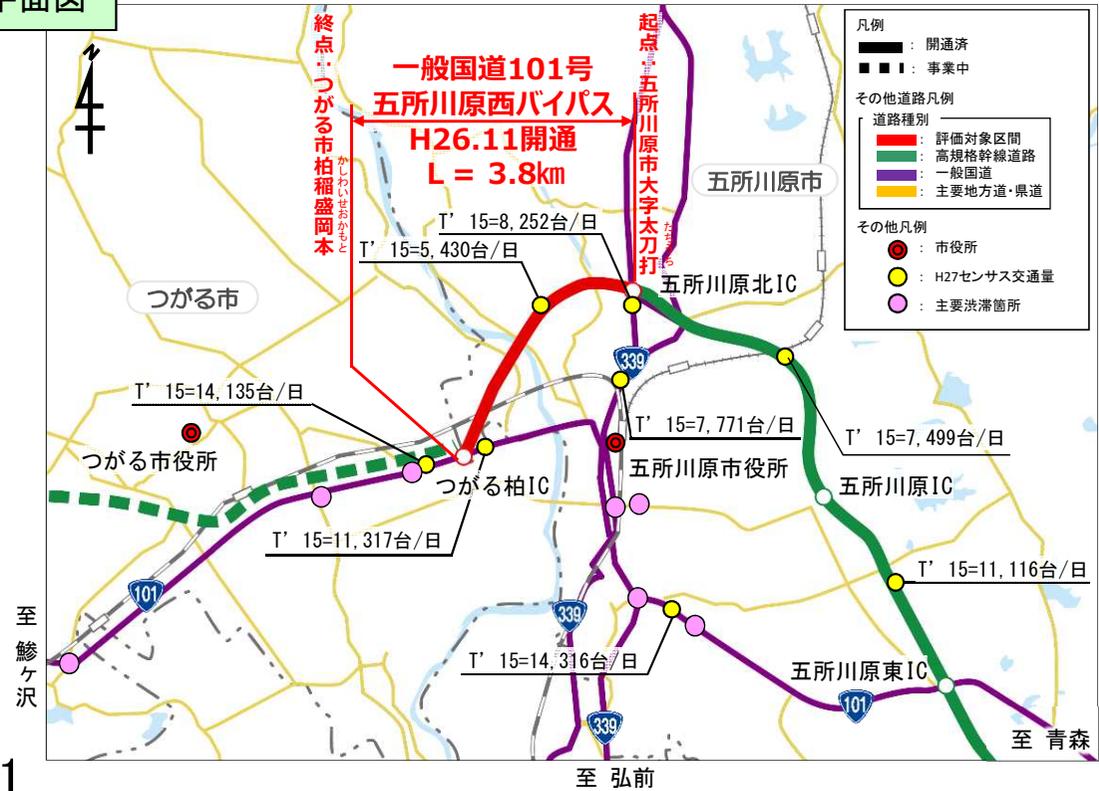
標準横断図(幅員)



位置図



平面図



1. 事業の目的と概要(2) 整備状況

① 上空から見た五所川原西バイパス[R1.11]



② 開通した五所川原西バイパス[R1.5]



五所川原西バイパス開通1年

周辺道の渋滞緩和

青森事務所

青森河川国道事務所は25日、五所川原市とつがる市を結ぶ道路として2014年1月に開通した、津軽自動車道五所川原西バイパス(3・8キロ)の1年後の延伸効果を発表した。周囲の国道、県道の交通量が1日当たり約1800台減少したほか、市街地の混雑緩和などに貢献した。

(下山和枝)

津軽自動車道は西北五地域の交通の大動脈として整備され、周辺市町村から未着工区間の早期事業化が求められている。
青森河川国道事務所が五所川原西バイパスの開通効果を調査したところ、バイパスの交通量は1日当たり約5500台で、周辺道路の交通量は開通前より減少。通勤・帰宅ラッシュが起きやすい朝や夕方の周辺道路についても、渋滞の発生率が開通前の18%から14%に減少し、バイパス利用者の7割が、「移動時間の短縮を実感した」と回答した。

また県内有数のスイカ・メロン産地であるつがる市や鱈ヶ沢町から、津軽自動車道1東北自動車道を経由した首都圏への安定的な輸送を後押ししており、「ドライバーの負担軽減につながった」「農産物の出荷拡大の効果が期待」といった声が関係者から上がった。さらにつがる市、鱈ヶ沢町では重篤患者の約7割が青森市の県立中央病院に搬送されている状況にあるが、バイパス開通後はさらなる時間短縮につながったことが確認された。

五所川原西バイパス開通

知事「産業振興の基盤に」

五所川原北インターチェンジ(IC)＝五所川原市C＝つがる市柏楯盛岡



県警のパトカーを先導に通り初めのパレードを行うバスやトラック＝つがる市柏IC付近

東奥日報(3面) H26.11.4

県内渋滞緩和 21カ所

バイパスや交差点改良で

対策協報告

県渋滞対策推進協議会は28日、2013年に公表した県内の主要渋滞箇所15年度は、さらに三つの対策事業が完了する予定。青森市の国土交通省青森河川国道事務所で会合が開かれ、加盟する県や青森、弘前、八戸の3市、業界団体の担当者らが出席した。渋滞が緩和したのは、青森6カ所、弘前4カ所、八戸・階上5カ所、五所川原5カ所、十和田1カ所の計21の交差点。本年度までに12の対策事業と、17地点での信号機の青時間延長などを行った。

このうち国道7号の沢田・鶴ヶ坂両交差点は、青森方面に向かう下り車線を常

東奥日報(25面) H27.8.29

陸奥新報(5面) H27.12.27

までを結ぶ津軽自動車道「五所川原西バイパス(3・8キロ)」が3日開通し、五所川原市で式典が行われた。国、県、地元関係者や来賓の県選出国会議員ら約120人が出席し、新バイパスの完成を祝った。
三村申吾知事は「産業振興や県民の生活を支える交通基盤として、五所川原西バイパスを最大限に活用していきたい」とあいさつ。
五所川原市の平山誠敏市長、つがる市の福島弘芳市長がそれぞれ未着工区間のつがる市柏楯ヶ沢町浮田の約13キロに、全線開通に期待を寄せた。
関係者たちはテープカットして、つがる市を割った後、通り初めのパレードを行った。県警のパトカーを先導にバスやトラック、乗用車が次々と五所川原北ICを出発し、つがる市柏ICまで走行。その後、一般車両が通行できるようになった。

(工藤知己)

2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

- ◆ 浪岡五所川原道路は平成19年12月に開通。鯨ヶ沢道路は平成31年3月に全線開通。
- ◆ 柏浮田道路は平成30年3月に事業化。

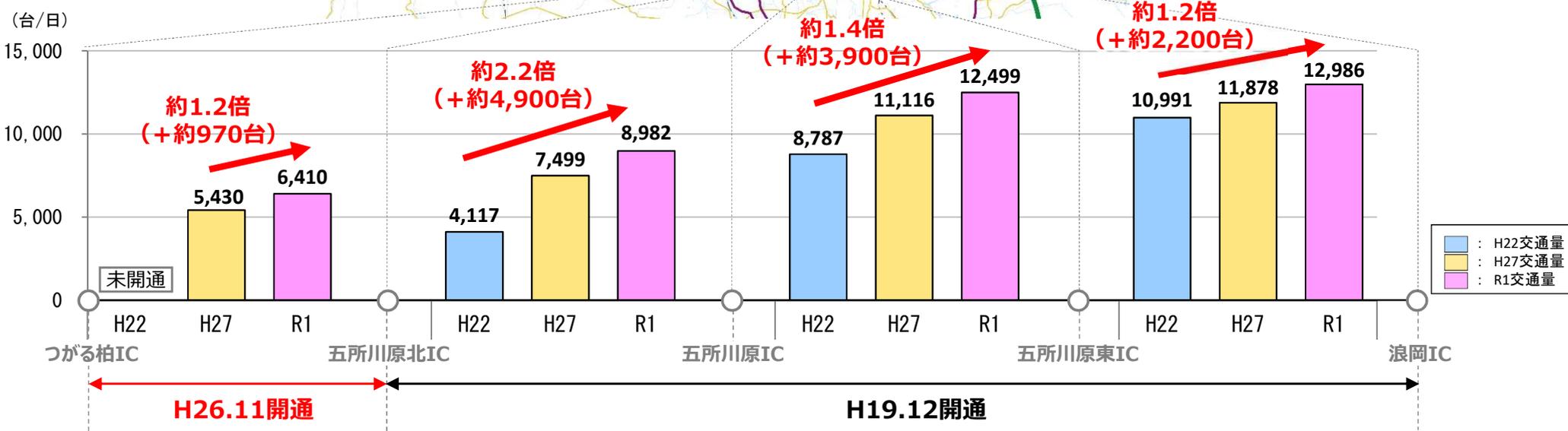
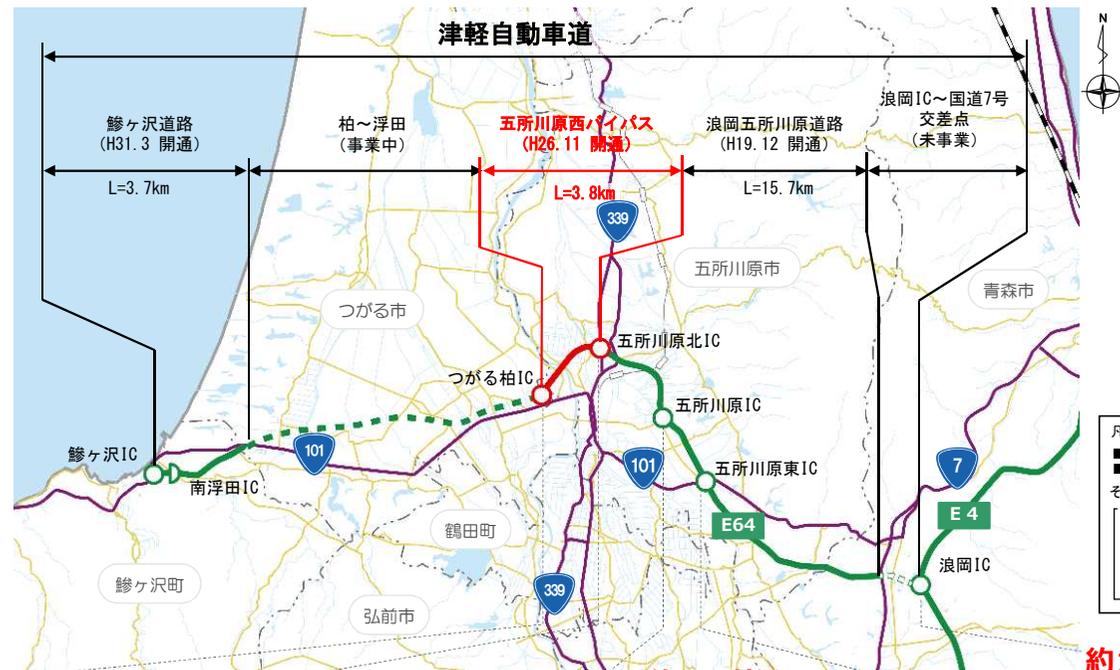
【青森県全体】

【五所川原バイパス周辺の拡大図】



3. 交通状況の変化(1)交通量

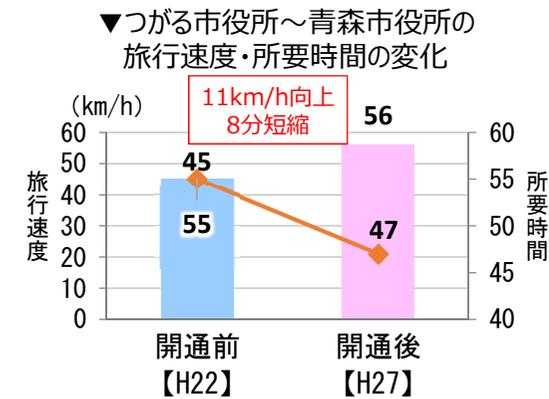
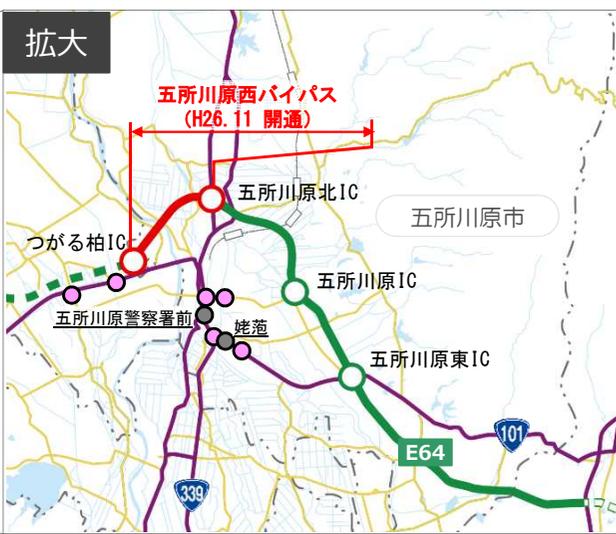
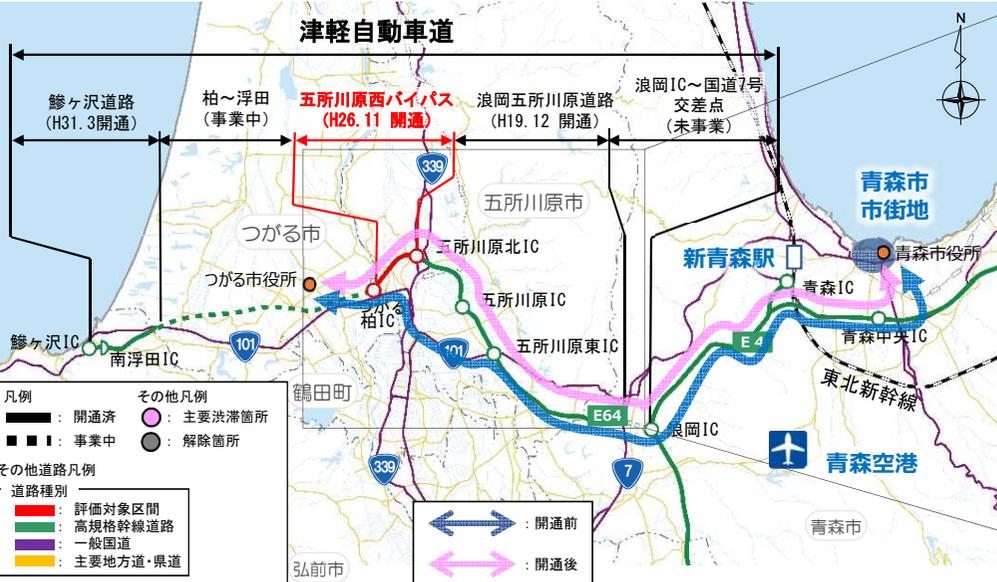
- ◆五所川原西バイパスの交通量は開通直後から約1.2倍に増加。
- ◆五所川原西バイパス開通後、五所川原北IC～五所川原ICの間では交通量が約2.2倍に増加。



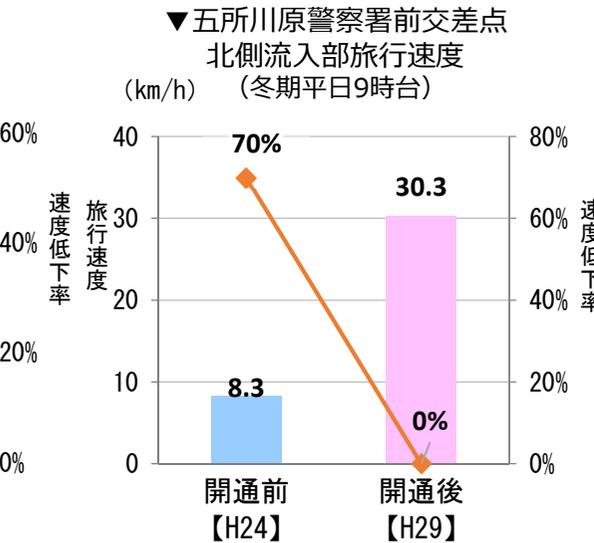
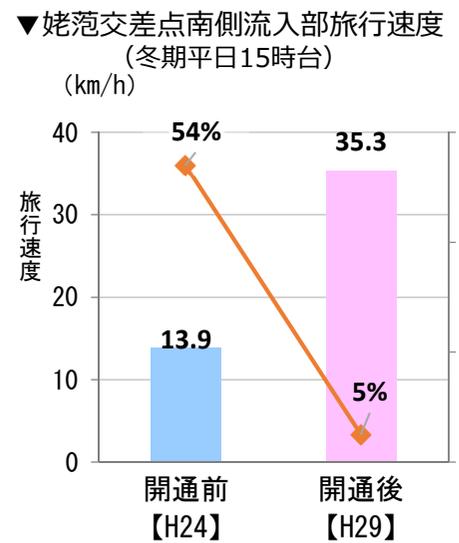
資料：H22・H27…全国道路・街路交通情勢調査データ
R1…津軽自動車道：車両感知器データ（R1.10平日平均）

4. 事業効果の発現状況(1) 混雑緩和・事故減少

- ◆五所川原西バイパスの開通により、つがる市役所～青森市役所間の旅行速度が向上し、所要時間が8分短縮。
- ◆バイパス並行現道区間では、冬期の旅行速度が向上し、主要渋滞箇所が2箇所解消(姥范交差点、五所川原警察署前交差点)。
- ◆渋滞箇所解消により、渋滞に起因した追突事故が3割減少し、交通安全性が向上。



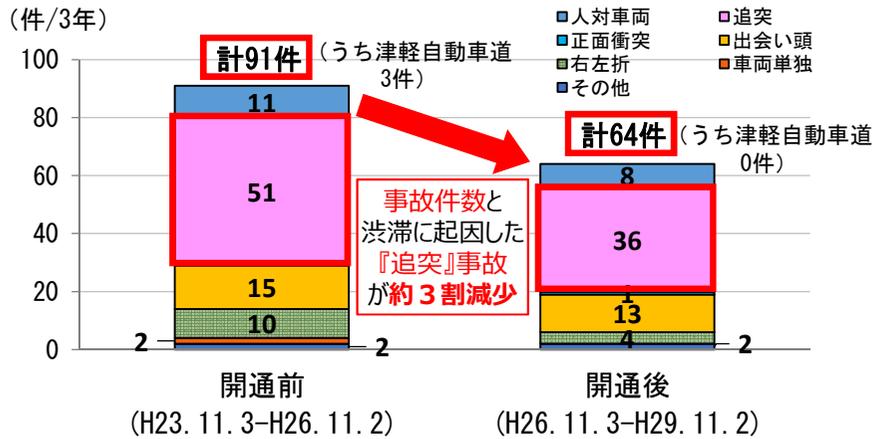
資料：H22・H27全国道路・街路交通情勢調査データ ※昼間12時間平均速度を用いて算出



資料：平成30年度第1回青森県渋滞対策推進協議会 ※渋滞箇所のモニタリング時に7～18時台の速度を集計、各箇所にて特に目立つ時間帯を表示

主要渋滞箇所(冬期)：1方向以上で「20km/h以下1時間以上」かつ50%以上の速度低下が1時間以上

▼死傷事故類型の変化



資料：イタルダデータ (H23-H29) 対象区間：つがる市役所～五所川原IC間の津軽自動車道及び並行路線

《道路利用者の声》

◆混雑していた五所川原市街地を避け、津軽道を走行できるため五所川原市街を通過する際は**時間短縮を実感**している。(R1.10 ヒアリング結果)

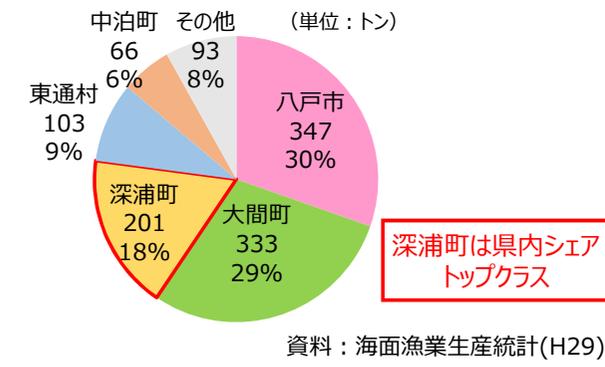
4. 事業効果の発現状況(2) 地域産業支援・物流支援

- ◆深浦町のクロマグロは、県内でもトップクラスのシェアを有し津軽自動車道を利用し、関東方面へ出荷されている。
- ◆深浦町ではサーモンの本格養殖が開始され、平成31年4月に初水揚げされ、生産量を増加させていく計画。
- ◆サーモンの輸送に津軽自動車道が利用されており、輸送面において新たな地域資源を活かした水産加工業を支援。

▼深浦町から青森市までのサーモン及びマグロ輸送ルート



▼クロマグロ漁獲量の青森県内シェア



深浦町は県内シェアトップクラス

【深浦町】特産のマグロを利用したご当地メニューやイベントを展開

『マグロステーキ丼』

3年10か月で15万食を達成

資料：深浦マグロステーキ丼HP

マグロ解体ショー等のイベント

資料：陸奥新報(H27.7.25)

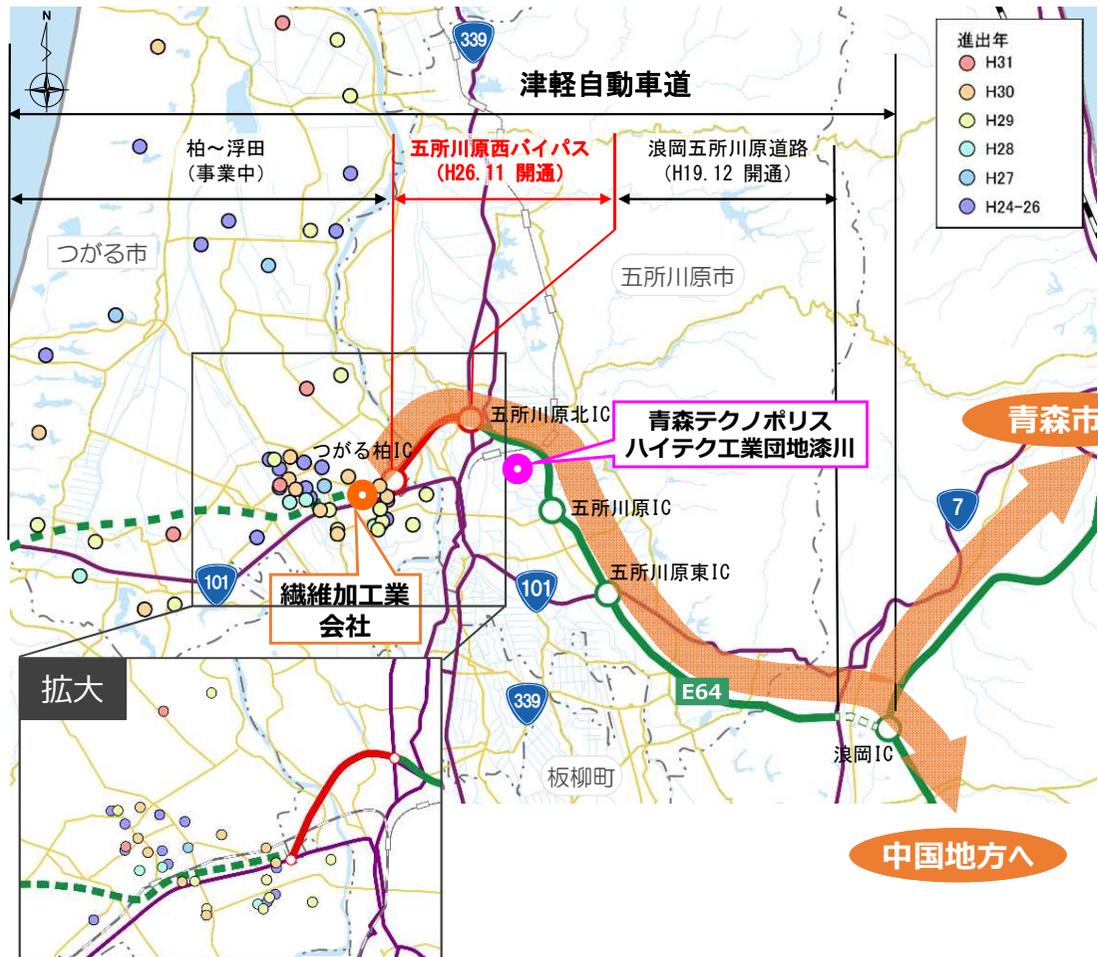
<サーモン関連水産関係者の声>

- ・青森県内で養殖場を検討していたところ、養殖に適した環境があったこと、深浦町の御協力があったことから、深浦町にて養殖をすることを決めた。
- ・2019年5月に約100tの成魚を北金ヶ沢漁港から青森市にある加工場まで津軽自動車道を利用し輸送した。
- ・令和2年は成魚を100t~150t輸送予定であり、年々輸送量を増加していく予定である。

(H29.2、R2.1 ヒアリング結果)

4. 事業効果の発現状況(3) 地域産業支援・物流支援

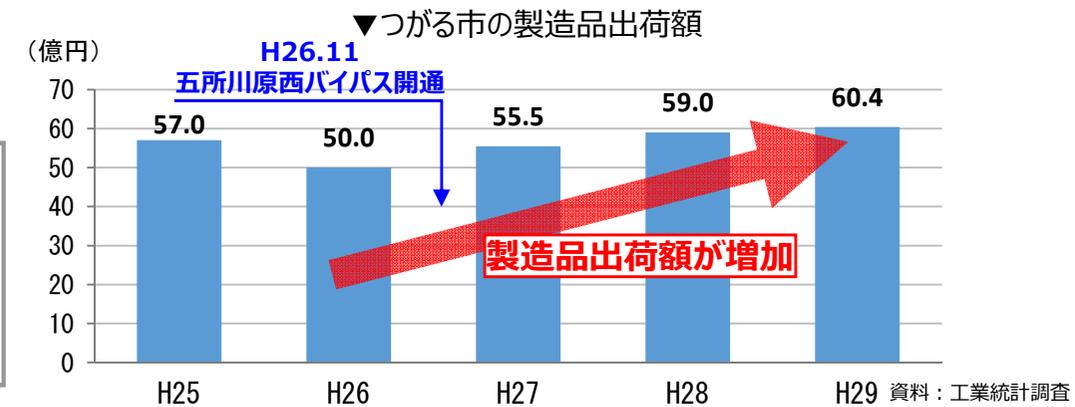
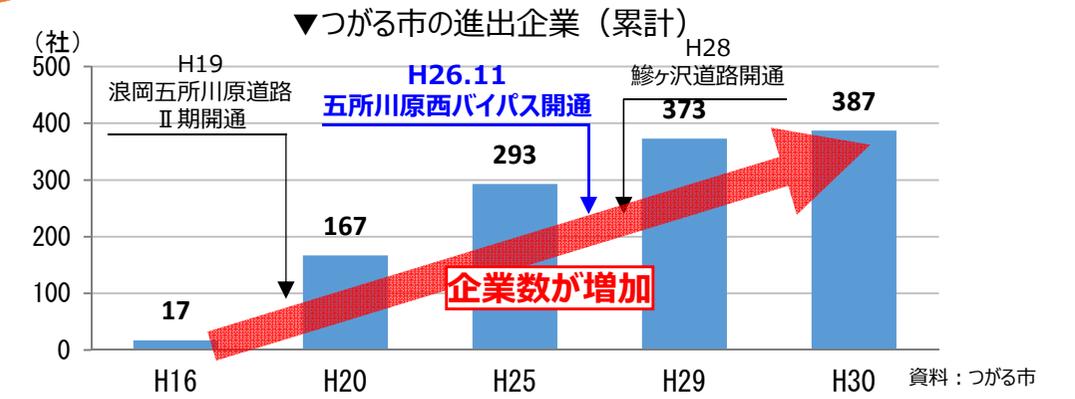
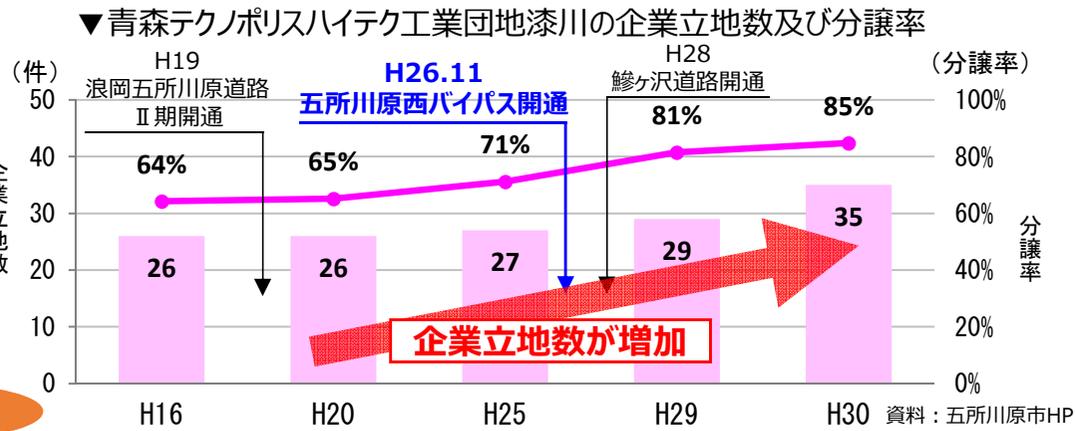
- ◆五所川原市の工業団地への企業立地数が増加しており、津軽自動車道の整備延伸に対応するようにつがる市へも企業が進出し、つがる市の製造品出荷額が増加。
- ◆五所川原西バイパスの開通により、所要時間が短縮・輸送遅延の心配が解消され、円滑な物流を支援。



《繊維加工業会社の声》

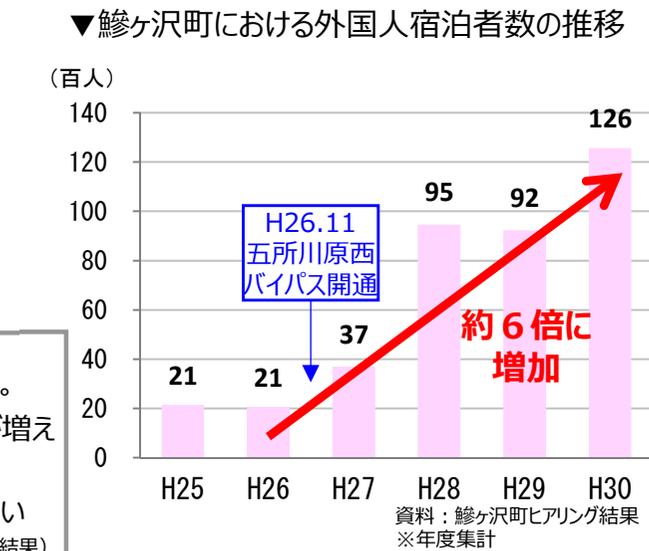
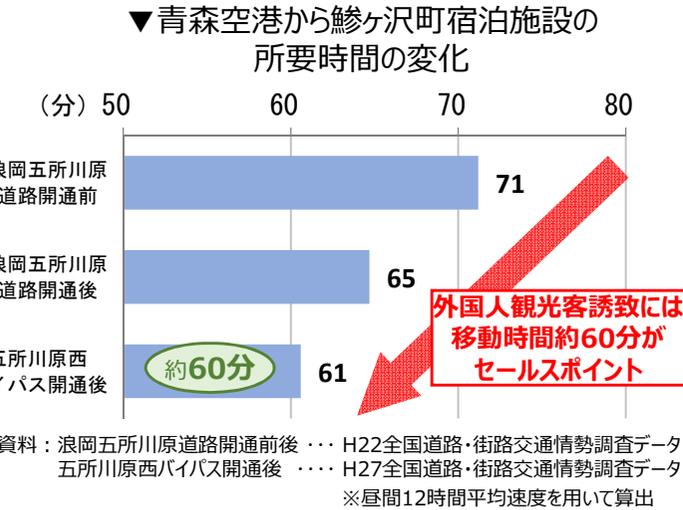
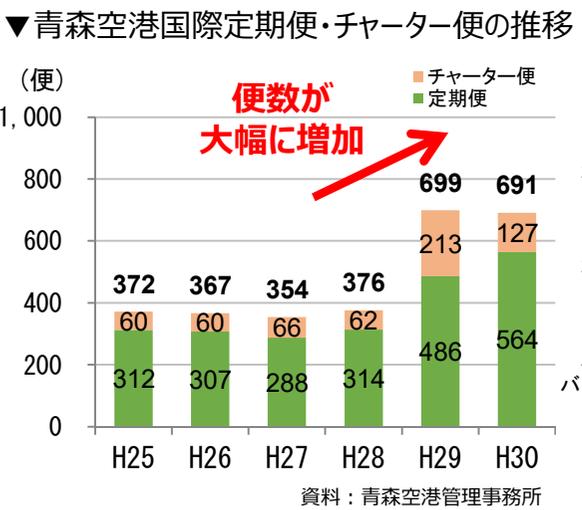
- ◆五所川原西バイパスを利用して毎日中国地方方面へ輸送している。
- ◆五所川原市街地を避けることが出来るため、つがる市柏から青森市へ約20分の輸送時間短縮を実感している。
- ◆五所川原西バイパス開通により、市街地の渋滞や迂回発生による輸送の遅延の心配が解消され、安定した輸送が可能となった。

(R1.11 ヒアリング結果)



4. 事業効果の発現状況(4) 観光・地域交流支援

- ◆青森空港の国際定期便・チャーター便数が増加。
- ◆五所川原西バイパス開通により青森空港から鱈ヶ沢町宿泊施設までの所要時間が約60分に短縮され、アクセス性が向上。海外の旅行代理店へのセールスポイントとなっている。
- ◆鱈ヶ沢町内外国人宿泊者が増加し、鱈ヶ沢町が各観光地への拠点となることで観光活性化に寄与。



《鱈ヶ沢町宿泊施設の声》

- ◆海外の旅行代理店は交通拠点からのアクセス性を重視しており「60分」が一つのラインとなっているため、バイパスの開通による時間短縮は海外旅行代理店へ説明する際の効果が大きい。
- ◆外国人観光客の約7割が台湾人団体客であり、鱈ヶ沢町宿泊施設から白神山地やスキー場など各観光地へ旅行している。

(H27.10、R2.1 ヒアリング結果)

《鱈ヶ沢町観光商工課の声》

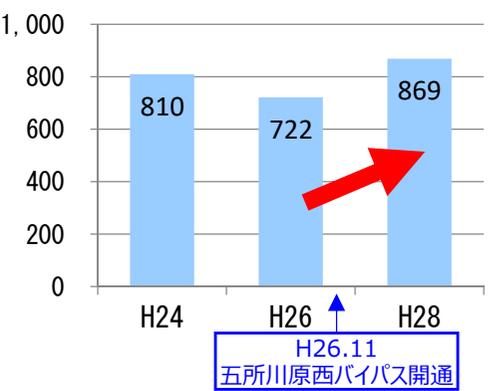
- ◆青森県や他市町村と連携しパンフレットや外国人対応の冊子を作成している。
- ◆夏場はレンタカー利用者が多く、国際便の増加により外国人の個人旅行者が増えている。
- ◆五所川原西バイパスの開通により、自動車移動の際の時間短縮につながっている。(R1.10 ヒアリング結果)

4. 事業効果の発現状況(5) 日常生活利便性向上

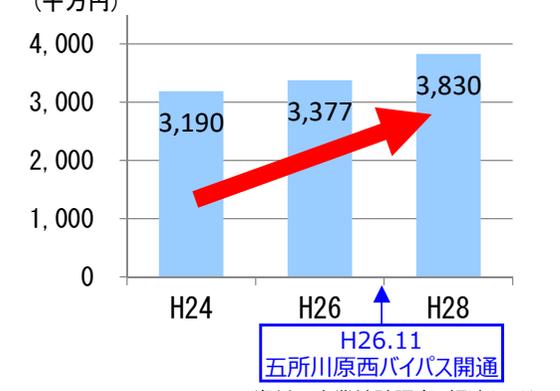
- ◆五所川原西バイパス開通以降、つがる市では小売業の事業所数及び年間商品販売額が増加。
- ◆休日のショッピングモール周辺への来訪者の約6割が五所川原西バイパスを利用。
- ◆イベント時の混雑回避や市街地の渋滞回避が可能になり、地域の生活利便性向上に寄与。



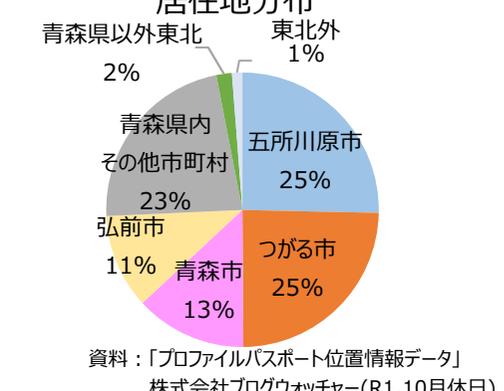
▼つがる市の小売業の事業所数推移



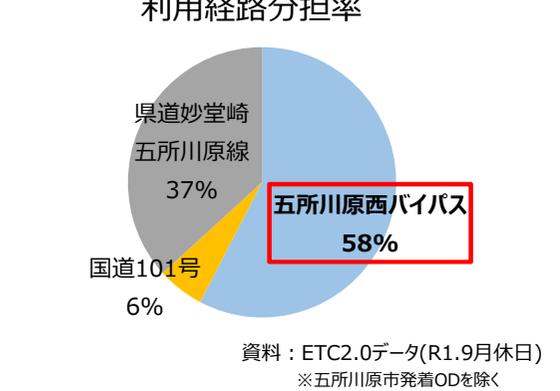
▼つがる市の小売業の年間商品販売額推移 (千万円)



▼ショッピングモール来訪者の居住地分布



▼ショッピングモール周辺来訪者の利用経路分担率



【つがる市内ショッピングモールにてイベント開催】

- <概要>
- ・ショッピングモールにて9月21~22日にイベントを実施
 - ・2日間で15万5千人が来訪 (9/21(土)：8万5千人、9/22(日)7万人)



- <誘導施策>
- ・交通量を分散させるように、五所川原西バイパスを利用した誘導施策を実施

- <五所川原西バイパスの効果>
- ◆五所川原西バイパスを利用できたこともあり、大きな混雑なくイベントを開催できた。
 - ◆五所川原西バイパスがなければ、五所川原市街地を中心に大きな混雑が生じていたと思う。
- (R1.10 つがる市役所ヒアリング結果)

《つがる市商工観光課の声》

- ◆つがる市の図書館がショッピングモールの中に入ってからショッピングモールへの来客数も増加している。
 - ◆五所川原市や大館市、県外からショッピングモールに来る人もいる。
- (R1.10 ヒアリング結果)

《道路利用者の声》

- ◆五所川原西バイパスを通行することで市街地部を避け渋滞箇所を回避でき、所要時間が短縮したため、青森市からつがる市のショッピングモールへ行く回数が増えた。
- (R1.10 ヒアリング結果)

5. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

別添一覧表参照

6. 事業実施による環境の変化

評価対象区間については、工事の実施及び完成後も環境への影響は確認されていない。

7. 社会経済情勢の変化

○新幹線の整備状況

- ・東北新幹線 平成22年12月4日 全線開業（八戸～新青森） 延長81.8km
- ・北海道新幹線 平成28年3月26日 開業（新青森～新函館北斗） 延長148.8km

○高規格幹線道路の整備状況

- ・津軽自動車道 平成30年3月 柏浮田道路（つがる市木造越水～つがる柏IC）事業化 延長12.3km
- ・津軽自動車道 平成31年3月 鱒ヶ沢道路 全線開通 延長3.7km

○一般国道の整備状況

- ・一般国道7号 青森西バイパス（Ⅱ期） 平成24年11月 4車線開通 延長4.3km

8. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

事業の目的に対する効果を概ね発現しており、現時点では今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。

9. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

当該事業の整備目的について、効果発現を確認できており、事業評価手法の手直しの必要性はない。

なお、今後津軽自動車道（浪岡～鱒ヶ沢）のネットワーク完成にあたり、今回同様ネットワーク全体での効果（特にストック効果）の検証に努める。